

| | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---------------|----------------------------------|-----|--------------------|-----|------------|-----|
| 科目名（英文表記） | 経営組織 I（組織行動マネジメント） (Business Organization I) | | | | | | | | |
| 科目区分 | 基本科目 | 単位数 | 2 単位 | | | | | | |
| 担当教員名 | 西村 友幸 | ナンバリング | MBA_B_BO 5111 | | | | | | |
| 研究室番号 | 311 | 研究室電話番号 | 27-5327 | | | | | | |
| Eメール・アドレス | nishimura@res.otaru-uc.ac.jp | | | | | | | | |
| 授業の内容及び方法： 次頁以降に記載 | | | | | | | | | |
| <p>授業の目的：</p> <p>組織行動 (Organizational Behavior) は、組織における人間の行動を意味します。組織行動を説明し、予測し、統制できる能力はマネジャーにとってきわめて重要です。本授業は、マネジャーやマネジャー候補生が身につけるべき組織行動に関する基本および応用的知識の修得を目的としています。</p> <p>組織における人間行動の分析は通常、①個人レベル、②組織レベル、③個人と組織とを架橋する集団（グループ）レベル、の3つのレベルでなされます。本授業でもこれら3つのレベルで組織行動とそのマネジメントの理解に努めます。具体的には、パーソナリティ、モチベーション、リーダーシップ、集団の意思決定と行動、コミュニケーション、組織構造と組織文化、組織の変革などのトピックスを取り上げます。</p> <p>以上より、本授業の到達目標は、組織行動に関する基本的知識の修得（主に講義とその予習・復習を通じて）および応用的知識の修得（主にケース討議とその予習・復習を通じて）により、現在もしくは将来のマネジャーである受講者が、組織行動を説明し、予測し、統制できる能力を身につけることにあります。</p> | | | | | | | | | |
| <p>使用教材：</p> <p>テキスト：小樽商科大学ビジネススクール[編]『MBAのための組織行動マネジメント』（同文館出版、2009年） ※原則として、テキストは各自で入手すること</p> <p>参考資料：ティーン P. ロビンス著『【新版】組織行動のマネジメント—入門から実践へ』（ダイヤモンド社、2009年）；須田敏子著『組織行動—理論と実践』（NTT出版、2018年）その他、必要に応じて随時資料等を配布または紹介します。</p> | | | | | | | | | |
| <p>成績評価の方法：</p> <p>以下の評価項目に基づき評価します。</p> <table border="0"> <tr> <td>・ 授業への貢献度（質問、ディスカッション、その他授業への貢献）</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>・ ケース分析レポート（事前・事後）</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>・ 試験（最終試験）</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。</p> | | | | ・ 授業への貢献度（質問、ディスカッション、その他授業への貢献） | 30% | ・ ケース分析レポート（事前・事後） | 40% | ・ 試験（最終試験） | 30% |
| ・ 授業への貢献度（質問、ディスカッション、その他授業への貢献） | 30% | | | | | | | | |
| ・ ケース分析レポート（事前・事後） | 40% | | | | | | | | |
| ・ 試験（最終試験） | 30% | | | | | | | | |
| <p>履修上の注意事項：</p> <p>5時限を超えて欠席した場合、自動的に不可となります。また、30分超の遅刻や退席があった場合、その時限は欠席扱いとなります。</p> | | | | | | | | | |